

○2番 森遼真君

椿市小学校6年、森遼真です。私は、魚を守り増やすための取り組みについて、質問します。海にプラスチックごみが増えてきて、魚が死んで減っている、というニュースを見ました。魚が減って、食べる魚が減ってしまうと思いますが、どう思いますか。

○議長 龍山咲良君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 工藤政宏君

森議員の御質問にお答えいたします。非常にまず寂しいことですよね。

今、御質問いただきましたけれども、まず行橋市も森議員と同じような考えを持っておりまして、漁業に携わる方々と一緒に、まず魚を育てて増やす取り組みを行っております。

現在、行橋市ではカキやノリの養殖が行われておりますが、実は森議員が生まれるずっと以前は、行橋市では、今も獲れるんですけども、昔はたくさん獲れていました、アサリやエビやカニやシャコ。シャコって知っていますか。知らないですか。今度お家に帰って調べてみてください。エイリアンみたいな、ちょっと気持ち悪いやつ。

そういったものが実際に水揚げされておりました。しかし、最近では、その数が大幅に減少しまして、漁業に従事される方々と協力して魚を増やす取り組み行っている次第です。

まず、その中で大きくちょっと2つほど御紹介させていただきたいんですが、1つ目の取り組みが、つくり育てる漁業事業です。これは、アサリの稚貝、子どもの貝をネットの網の袋に入れます。たくさん入れるんですね。そしてそれを海岸に置くんですけども、そうした袋に入れることで、魚のエイなどから食べられるのを防ぎます。そしてその袋の中で徐々に大きくアサリが成長していくというやり方ですね。

もう一つは、栽培漁業推進事業といったものがございます。8月の中旬ごろから、蓑島漁港にある大型水槽の中でエビの子どもを1カ月ほど育てます。そしてある程度の大きさにしてから、また自然界に返す。小さい時だったらすぐに魚に食べられたりしますので、ある程度の大きさまで育ててから放流する、そういった取り組みを行っております。ちなみにカニも直接放流を行っております。

また、海だけではなく川でも同じようなことをやっております。今川と祓川では、きれいな川で育つアユ、ヤマメ、それからウナギなどの子どもを放流して、資源を維持する取り組みをしております。行橋市も海や川、山、自然豊かな地域でございますが、こういった美しい自然や水産資源を、未来を担う皆様方にしっかりと引き継いでいくために、さらに研究しながら、引き続き、養殖や育成活動に取り組んでまいりたいと考えています。以上です。

○議長 龍山咲良君

森議員。

○2番 森遼真君

ありがとうございました。次の質問に移ります。

そこで僕は、養殖をして、逃がしたり、プラスチックごみを回収すればいいと思います
が、どう思いますか。

○議長 龍山咲良君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 工藤政宏君

プラスチックごみについて、お答えいたします。2019年11月だったと思いますが、
イギリスの海岸にマッコウジラが打ち上げられた。お腹の中に100キロ近いごみがあ
って、その中にたくさんのプラスチックごみがあった。これはイギリスだけのことに限ら
ず、世界中でクジラのお腹からとか、それからウミガメがプラスチックの網に引っ掛かっ
たり、いろんな悲しい報告があるわけでございます。

海に漂流するビニール袋や小さなプラスチック、マイクロプラスチックをエサと間違え
て食べてしまうとか、あるいはそれで結果的に食べ物が食べられなくなって衰弱して生き
物が死んでしまうんじゃないかとか、いろいろなお話があるわけです。ウミガメやイルカ、
海鳥など、他の海の生き物についても、漂流しているビニールを食べたり、袋や網が体
にからんだりして、死んでしまったりする例が多数報告されています。

これらの原因は、実は海、遠くのほうから日本の海岸に流れ着いたのではなくて、その
ほとんどの7割から8割が陸、つまり私たちが住んでいる所から、何かしらのかたちで海
に流れて行ったものと言われております。

今、海に流れ出た海洋プラスチックごみが、世界全体の海で言うと、いま年間800万
トンくらい海に漂っているということでございます。日々、漁業者やボランティア団体が
海の清掃を実際に行っております。この清掃活動というのは非常にありがたいんですけれ
ども、海岸に流れ着いたごみの7割から8割は、先ほど申し上げました我々の生活から出
たごみなんですね。そういった意味で、まずは私たち一人一人が毎日の生活の中で、ポ
イ捨てはもちろんですが、こうしたプラスチックの製品を必要以上に使わないとか、そう
いった取り組みが必要なのではないかと思っております。

それからプラスチックごみの回収についてなんですが、私も昨年と今年で2回ほど長井
と杳尾の海の清掃活動に実際に参加しております。その中でもやはりごみの量というもの
に、本当に驚かされました。これは、清掃しても、すぐにまたごみというのは浜に溜まっ
ちゃうんですね。なので、これは一般質問の機会ではございますが、ぜひ森議員も、そう
いった清掃活動に参加しませんか、ということを私からも提案させていただきたいと思っ

ております。

それから、ちなみに市が行っていることとして、グループでゴミ拾いをする場合などは、紫色の袋ですが、ボランティア袋を支給させていただいております。また環境課などに連絡をしていただければ、ボランティア活動をしてゴミが大量にある場合などは、そのゴミを回収させていただいたりもしております。

そういったかたちで市も努力し、研究し、また市民の皆さん方の、そういったゴミを拾うような活動にも協力させていただいておりますので、ぜひとも一緒に汗を流しましょう。以上です。

○議長 龍山咲良君

森議員。

○2番 森遼真君

ありがとうございました。これで質問を終わります。